

奨学金返還は月々 1万5,000円 で重い負担感

— 卒業予定者に初めての意識調査 —

一般社団法人NTSセーフティ家計総合研究所（本社：港区、理事長：大竹淳一、以下NTS家総研）は、このほど首都圏の大学、専門学校に来春卒業生を対象に、奨学金の返還に関する意識調査を行いました。

この調査は奨学金返還に関する学校主催のセミナーに参加した、現在奨学金を受給している学生（来春卒業予定者）を対象に行ったもので、奨学金関連の調査としては初めてのサンプル特性をもつものです。このセミナーへはNTS家総研が講師を派遣しています。【調査の結果は、添付資料1に整理しております】

NTS家総研は、ニッテレ債権回収株式会社（許可番号 法務大臣第7号）の関連法人で、社会貢献事業として経済的に困っている人への家計管理カウンセリングと、今回の奨学金セミナーのような消費者啓発活動を社会に提供しています。

今後は、来春の入学者向けオリエンテーションでの奨学金についての啓発セミナー（借り過ぎ防止）への講師派遣も同時に行ってまいります。

また、奨学金の返還が始まって数年の既卒者へのアンケート等も実施し、若者の生活における奨学金の負担感等をさらに調査して公表していく予定です。

【添付資料】

資料1 奨学金返還に関するアンケート調査結果(概要)

【お問い合わせ先】

一般社団法人 NTSセーフティ家計総合研究所 担当：村田、國枝

電話：03-6459-4770 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-13-2 Yビル 6階

E-mail：safety@nts-hd.co.jp. URL：https://nts-safety.com/

奨学金返還に関するアンケート調査結果(概要)

1. 調査設計

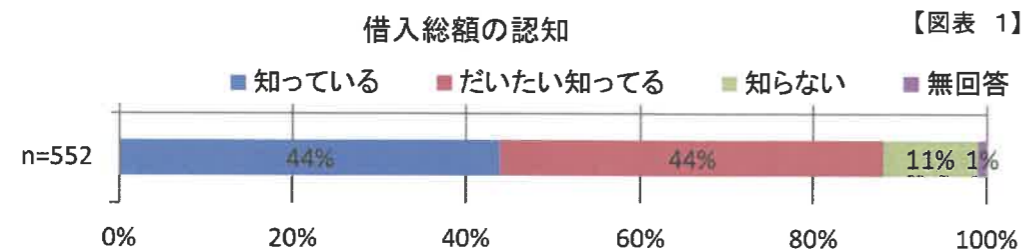
- ①調査日時 2017年10月26日～2017年11月13日
- ②調査対象 上記期間に奨学金返還に関するセミナー(学校主催)を受講した学生を対象。(このセミナーへはNTSセーフティ家計総合研究所が学校から依頼を受けて講師を派遣しました)(このセミナーは、日本学生支援機構が来春卒業予定の学生に発行する「貸与型奨学金返還確認票」(返還票)を学校の事務局が個別に学生に渡す際に実施されました)
- ③サンプル数 首都圏の私立大学2校と専門学校1校の来春卒業予定者552人。彼ら彼女たちは、来年10月から奨学金の返還を予定しています。

2. 調査結果(概要)

①借入総額の認知と借入額

来春から奨学金を返還するにあたって、総返還額がいくらになるか聞いてみました。「知っている」「だいたい知っている」で9割近くとなりました。返還票の配布前にこのアンケートに答えた学校もありますが、その学校の場合は「知らない」の割合が1.5倍程度になっています【図表1】。

* 返還票には借入総額と月額返還額が記載されています。



では、その額がいくらであるかを聞いたのが、【図表2】です。分布として多いのは200万円～400万円で、約半分(45%)を占めます。ところがこの中で最も多い回答は、「知らない」または無回答で22%に達しています。

つまり卒業間近に迫った学生ではあるものの、5人に1人はいったいいくら奨学金を借りたことになっているか知らなかったということになります。

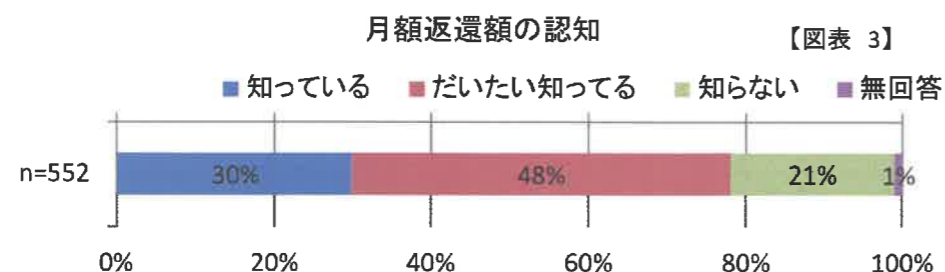
借入総額 【図表 2】

	(割合)	人
50万～100万	3%	17
100万～150万	11%	63
150万～200万	4%	21
200万～250万	17%	96
250万～300万	12%	65
300万～350万	11%	60
350万～400万	5%	27
400万～450万	3%	19
450万～500万	4%	22
500万～600万	4%	21
600万～700万	2%	10
700万～800万	1%	7
800万以上	1%	5
知らないまたは無回答	22%	119
合計	100%	552

②返還月額の認知と返還月額

アンケート対象になっている学生は来年の10月から実際に奨学金の返還が始まります。毎月の定額返還ですから借入総額は仮に認知していないとしても、返還額に対する認知は高いもの想像できます。

ところが実際には前ページの借入総額よりも、月額返還額を「知らない」と答えた学生の方が多い結果となりました【図表1と3】。



具体的な金額を聞いたのが、【図表4】です。1万円から1万5,000円未満のゾーンが20%と多く、その上の2万円未満、2万5,000円未満が15%で並んでいます、合計するとちょうど半分の50%になります。

月額返還に関する質問でも、借入総額と同様に最も多い回答は「知らない」または無回答で、31%と高い割合を占めています。先ほどの借入総額を知らないは5人に1人でしたが、今度は3人に1人の割合になります。

奨学金を返還できない人が問題になっていますが、在学中とはいえ卒業間近で月々の返還額を認知していないのですから、多くの卒業生が実際に返還が始まってあわてているのが目に浮かびます。

月額返還額 【図表 4】

	(割合)	人
5,000円未満	0%	1
5,000～10,000円未満	10%	53
10,000～15,000円未満	20%	110
15,000～20,000円未満	15%	85
20,000～25,000円未満	15%	84
25,000～30,000円未満	3%	17
30,000～35,000円未満	2%	11
35,000～40,000円未満	1%	4
40,000～45,000円未満	1%	8
45,000円以上	1%	6
知らないまたは無回答	31%	173
合計	100%	552

<参考>

■ 奨学金の貸与と返還の仕組み(第2種)

奨学金の貸与額にはあらかじめ決められたいくつかのパターンがあります。第1種(無利子)と第2種(有利子)は高校時代の成績によるものです。第2種は入学時から卒業までほぼ申し込んだ金額で貸与を受けられます。

下は、4年生大学の第2種奨学金(有利子)の貸与額と返還額をまとめたものです。月額貸与額はここに記載された月額の中から選びます。毎月7万5,000円貸与を受けたいと希望してもできない仕組みになっています。

最高額は月額12万円になります。この場合は、月々の返還額は2万5,282円の20年払いとなります。

□ 第2種奨学金の貸与額と月々返還額(4年生大学)

月額貸与額	借入総額	月々返還額	返還回数(年)	返還総額	内利息
30,000	1,440,000	9,557	156(13年)	1,491,061	51,061
50,000	2,400,000	13,874	180(15年)	2,497,419	97,419
80,000	3,840,000	16,855	240(20年)	4,045,295	205,295
100,000	4,800,000	21,069	240(20年)	5,056,654	256,654
120,000	5,760,000	25,282	240(20年)	6,068,011	308,011

注) 利息は0.5%として試算しています。最近の金利は0.3%程度です。

□ 第1種奨学金の貸与額(4年生大学)

第1奨学金(無利子)の貸与月額は、以下のようになっています。第1種と第2種を併せて利用することもできます。

国公立	自宅通学	30,000円 または 45,000円
	自宅外通学	30,000円 または 51,000円
私立	自宅通学	30,000円 または 54,000円
	自宅外通学	30,000円 または 64,000円

□ 入学時特別増額

入学時に以下の金額を増額で貸与を受けることができます。

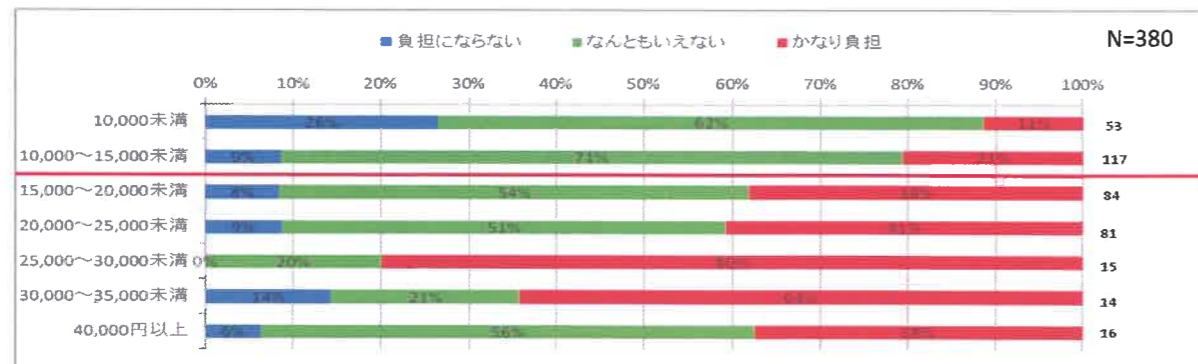
10万円、20万円、30万円、40万円、50万円

③返還月額と負担感

以下は、【図表4】で月額返還額を答えた学生に聞いた質問です。実際の返還は始まっていませんから、現時点での想像ということになります。この図表をみるとわかるように、月額返還額が15,000円を超えると「かなり負担」と考える学生の割合が急増します。

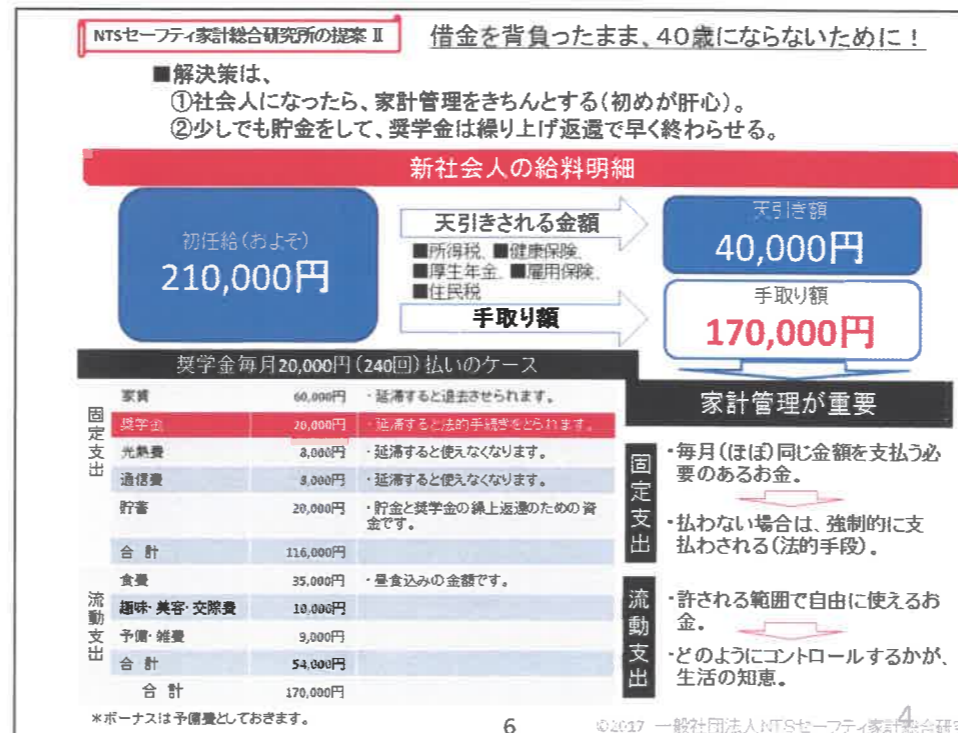
月額返還額が15,000円以上ということは、第2種で月額80,000円以上の貸与を受けている計算になります。今回のセミナーで学校のご担当の方のお話を伺うと、満額の120,000円を借りている学生(この場合、返還額は25,000円を超えます)もかなりの割合でいるとのことでした。

返還月額と負担感 【図表 5】



■ 右は、大学のセミナーで学生に提示した資料です。初任給210,000円だとして、手取りは170,000円程度になります。そこから家賃などの固定支出を支払い、食費などの流動支出を支払うと20,000円という奨学金の返還はかなり重たい負担になります。

□ この資料は4年生大学の卒業生が一般的な企業に就職した場合です。職種等によって初任給は変わってきますので、学校に合わせた内容で提示しました。



④繰上返還の意向

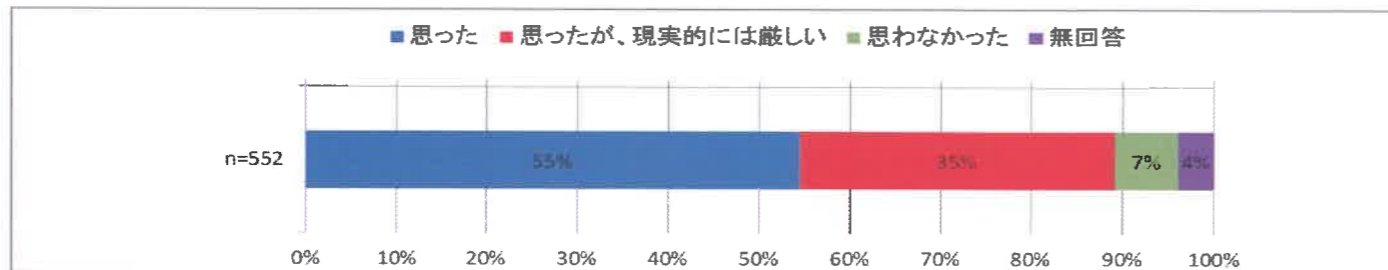
奨学金の返還は、最長20年にわたる長期契約です。大学卒業が仮に22歳だとすると、完済するのは40代に入ってからになります。もし減額返済を利用して支払期間を延長すると、さらに10年先延ばしになります。そのとき子どもがいれば、自身の奨学金の返還に加えて、子どもの教育費のことにも頭を悩ませなければなりません。

そこで繰上返還を利用してなるべく早く奨学金の返還を終わらせる(負債から解放)ことをセミナーでは提案しました。その結果、ほとんどの学生(90%)は賛意を示しましたが、「現実的には厳しい」と考える学生も3分の1(35%)いました。

セミナーでは、第2種奨学金を例にあげて、繰上返還することによって、どのくらいの期間が短くなって、さらに利息の負担がどのくらい軽くなるかも具体的に示した資料を提示しました。

繰上返還の意向

【図表 6】



■ 右は、大学のセミナーで学生に提示した資料です。(一番下の行)貸与月額120,000円の場合は、利息が0.5%だったとして、返還月額25,282円の240回払いになります。このケースで、半年に1回約100,000円を繰上返還すると、返還回数は146回に短縮され、利息も116,451円負担しないで済みます。



NTSセーフティ家計総合研究所の提案 I 繰上返還を使おう!

■繰上返還するには手続きが必要です。
 ・事前にJASSOに連絡する必要があります(スカラネット・パーソナルから[繰上返還申込書]入手)。
 ・繰り上げできる金額は、月々の返還額の倍数。
 ⇒ 例えば10万円あるから、10万円繰り上げたいといっても受け付けられません。
 ・月々の返還額の返還日に併せて、銀行の口座振替で返還します。

頑張れば20代のうちに奨学金から解放されるかもしれません。

繰上返還を利用した場合の得する利息と、短縮する期間

■繰上返還の額は、返還月額の倍数で最も10万円に近い金額で計算しています。
 ■例えば、貸与月額10万円(返還月額21,000円)の場合は、6ヶ月分の105,346円(このうち期日未経過分利息を除く)となります。

貸与月額	借入総額	年利	返還総額(円)	返還月額	返還回数	繰上回数	返還完了まで	得する利息
30,000	1,440,000	0.50%	1,491,081	81,081	9,557	156回	10回 (4年10か月)	29,707
50,000	2,400,000	0.50%	2,497,419	97,419	13,874	180回	14回 (6年10か月)	48,738
80,000	3,840,000	0.50%	4,045,295	205,295	18,855	240回	20回 (10年2か月)	67,047
100,000	4,800,000	0.50%	5,095,854	259,854	21,068	240回	23回 (11年10か月)	107,088
120,000	5,760,000	0.50%	6,088,011	500,011	25,282	240回	24回 (12年2か月)	116,451

(注1)年利は、卒業後決まりますが、最近(0.59%)程度ですから、目安としてこの数値を利用しました。
 (注2)入学から卒業までフルに奨学金を受けた前提で計算しています。在学の途中から受けた場合や、在学中に受給を止めた場合は、このままの数値にはなりません。あくまでも目安としてお使いください。
 (注3)この計算は、JASSOの資料をもとに算出したものです。JASSOとは100円未満の誤差が生じている可能性があります。正確な数値については、年利が確定した段階でJASSOにお問い合わせください。